地球環境や人、社会、地域に配慮していこう！　エシカルレター
ethical letter
2022. 5. 20号

お茶について。

ツバキ科のチャノキから作られた「茶」は、発酵度合いにより分類されます。

- 茶を摘んですぐに、蒸す、炒るなどの方法で、発酵を止める不発酵茶　（緑茶）
- ある程度は酸化発酵させる半発酵茶　（烏龍茶）
- 十分に酸化発酵させた発酵茶　（紅茶）

そして緑茶の中でも、栽培方法や製造方法によって、煎茶、玉露、抹茶、番茶などに分かれ、煎茶や番茶を焙したものがほうじ茶、炒った米を混合したものが、玄米茶になります。

お茶の樹は年に２～４回収穫することができ、立春（２月４日）から８８日目の八十八夜に摘まれるものが「一番茶」と呼ばれます。

「Ｅｃｏ列車でいこう！」～第 153 回～　函館の味。

（CO２排出量の少ない交通機関での旅行や、心が豊かになるような旅行を紹介するコーナーです！）

５月４日の早朝。クルマを青森港に残し、リュックを担ぎ、４：３０発の青函フェリーに乗船する。ジュータンスペースで少しまどろめば、右岸に函館山が近づいて、８：３０、函館港に入港した。

連絡バスで函館駅へ。駅前には有名な「函館朝市」がある。ウニやイクラなど豪華な海鮮丼が人気だが、比較的空いている店舗で、イカ３杯分を使った「イカ丼」を食す。新鮮でうまかった。

レンタカーを借り、国道５号を北上。大沼公園を散策。道産小麦を使った焼き立てパンをテイクアウトして昼食。牧場のソフトクリームも味わい、公園近くのペンションに宿泊した。

駒ヶ岳を臨み、春を待ちわびた花々が庭を飾る。鳥のさえずりも心地よい。夕食は大きなハンバーグやグラタンなど。函館から、わずか３０キロ程度だが、北海道らしさを感じる良い宿だった。

翌４日。レンタカーを返却したあと、「道南いさりび鉄道」で途中駅を往復。購入した駅弁「北の家族」の中身は、身欠きにしん、筋子、数の子など、北の幸が満載だ。北海道限定ビール「サッポロクラシック」を飲みながら、海辺を走る２両編成の列車から車窓を楽しんだ。

午後からは函館山登山。標高は３３４ｍで、登山道も整備されており、コースタイムは１時間程度。スニーカーで登ることができる。昼の函館山は眺望が開け、遠くの山々や津軽海峡もバッチリ見える。下山後、開港時の歴史的建造物や、ベイエリアを観光してから、ホテルで休息。

日が暮れてきた頃、予約していた居酒屋へ。刺身の盛り合わせや、活イカの刺身、いかの丸焼きなど。お酒は昆布焼酎を楽しんだ。気持ちも良くなり、バスで夜の函館山へ。「函館夜景」を満喫し、〆は函館名物の「塩ラーメン」。短い日程だったが、「函館の味」を堪能し、充実した旅となった。

朝市のイカ丼

活イカの刺身は身が透き通る

夜景は息をのむ美しさ